

にこっと通信

第 36 号

発行年月日:2025 年 2 月 13 日

発行人:地域支援介護予防センター

☎:42-3681



生活支援コーディネーターが

“地域の支えあい活動”を応援・お手伝いします！

斎藤

三条

西尾



たとえば／

一人暮らしで生活が不安…

趣味の畑や手芸を何かに
活かせないかなあ

一人では続かないので
仲間と体を動かしたい！

不安な気持ちを聞かせて
ください。安心して
暮らせるまちづくりに
一緒に取り組みます。



販売したり同じ趣味の
仲間を集めたり…
どんなことができるか
一緒に考えます。



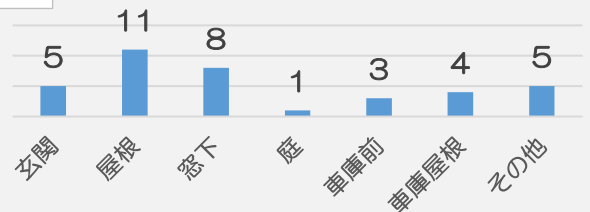
地域の活動を紹介したり、
活動している方と
おつなげします。



■ 取り組み紹介 - 新京極町内会“除雪”から考える地域づくりー

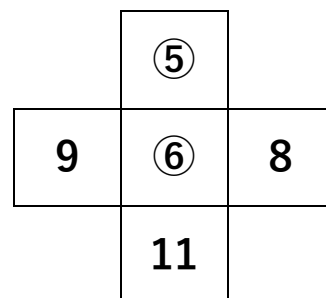
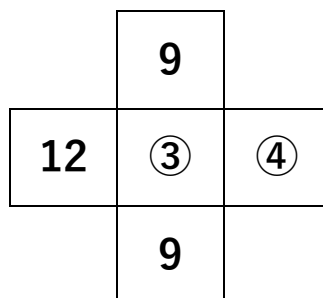
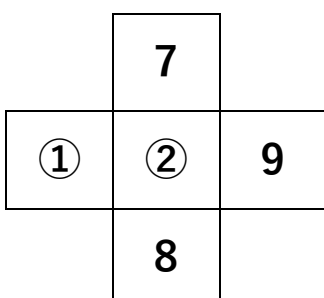
- ・京極町の冬の大きな課題である“除雪対策”について、新京極町内会と一緒にできることを検討しています(写真①)。
- ・町内会三役班長と打ち合わせを行い、除雪の現状を知るためにアンケート調査を実施(グラフ②)。生活支援コーディネーターが訪問し、除雪の状況を詳しく聞き取りました。
- ・今シーズンの取り組みとしては、2/1(土)に実施した除雪ボランティアイベントに、新京極町内会の参加者 10 名でチームをつくり町内会内の対象 1 世帯を除雪しました(写真③)。町内会で取り組んだことでスムーズに除雪が進み、イベント後も気に掛け合うきっかけになりました。

② 自宅の除雪で困っている所はありますか



Let's 脳トレ

縦も横も足して 25 になるように数字を入れましょう



第5回つどいの場交流会 盛り上がりました！



11/20に町内の「つどいの場」全13グループから47名の方に参加いただき、交流会を行いました！

各グループの自慢大会、みんなで脳トレ、ボール運びレク、茶話会を行い楽しいひと時を過ごすことができました！

週1回「つどいの場」に参加することで、皆さん元気を維持できていることを再認識していただけたと思います。



おすすめ本



村田 喜代子 『エリザベスの友達』(新潮文庫刊)



介護付き有料老人ホーム『ひかりの里』に入居している初音さん(97歳)、牛枝さん(88歳)、乙女さん(95歳)は、認知症が進み、もう家族のことも忘れてしまっています。「病が魂を次々と剥いていく」ように、現在の暮らしが空っぽになっていく一方で、心の内側では過去の人生を再び生きています。若く元気だった姿に戻り、過去の記憶の中で生き生きと暮らす姿は、外側の私たちから見ると「抜け殻のよう」に見えます。でも、作中の介護士が言うように「認知症は自由」なのかも知れません。この物語のように記憶の中を自由に旅する人だとして認知症になっても人生は輝いています。(フィクションなのでわかりませんが。)3人の入居者はそれぞれに戦争で人生を翻弄された記憶を持っていますが、特に初音さんの天津租界での豊かな暮らしが、後の歴史を知っているがゆえに一層悲しく偉く感じられます。認知症について考えると同時に反戦の思いも深まる作品です。

「にこっと通信」は

京極町社会福祉協議会のホームページではカラーで見ることができます

京極町社会福祉協議会

検索



にこっと通信の感想、ご意見などございましたら、お気軽に地域支援介護予防センターまでお知らせください！
☎：42-3681(代表)

8 ㊦ L ㊦
9 ㊦ 01 ㊦
9 ㊦ 9 ㊦
そ